

愛知登文会ニュース 第33号

令和4年12月25日号

■ 事業実施報告「あいちのたてもの博覧会 2022（あいたて博 2022）」

今年度は文化庁の補助が制度上いただけない年度となっており、例年のような規模での開催はできませんでしたが、所有者や専門家、会員の方々からご支援いただき、20箇所の建物公開及び3つのコラボ企画を実施することができ、建物解説にはのべ506人の方にお越しいただきました。

これまでの9回の開催で、参加いただいた登録有形文化財は95箇所、建物解説にはのべ8,200人以上に達しています。来年度からは新しい枠組みの中で規模を拡大して実施できればと考えています。

ご期待ください。

あいちのたてもの 博覧会



あいたて博 2022 参加文化財

西三河地方：旧本多忠次邸・旧愛知県第二尋常中学校講堂・善立寺・刈谷市郷土資料館

北尾張地方：川田家住宅・旧小守家住宅

名古屋市：寛家住宅・中濱家住宅・日本福音ルーテル復活教会・川原田家住宅・瑞陵高等学校感喜堂

東三河地方：豊橋市公会堂・豊橋市民俗資料収蔵室・トヨタ本社社屋

知多地方：野間郵便局旧局舎・野間崎灯台・中定商店

尾張地方：柴田家住宅・甘強味林西洋館・旧山繁商店

コラボ企画：名古屋市公会堂・名古屋陶磁器会館・小栗家住宅

瑞陵高等学校感喜堂（名古屋市）
今年度登録、あいたて博初参加

◆10月23日(日)～西三河地方～

岡崎市と刈谷市の文化財4件を公開。旧本多忠次邸では折り紙建築ワークショップと館内ツアーも行われ、親子でも参加いただきました。初参加となった刈谷市郷土資料館では学芸員の方に説明いただき、やはり解説があるとよくわかるとの感想が聞かれました。善立寺の様子はケーブルテレビで紹介されました。



折り紙建築ワークショップ（旧本多忠次邸）



学芸員による説明（刈谷市郷土資料館）



特徴的な天井の模様（善立寺）

◆11月5日(土)～北尾張地方～

扶桑町と犬山市の文化財2件を公開。旧小守家では養蚕具商としての暮らしの道具などの展示もあわせて行っていただきました。川田家住宅では、この日だけではなく、11・12月で7回の公開が行われました。



旧小守家の歴史を紹介（旧小守家住宅）



立派な差し鴨居（川田家住宅）

◆11月6日(日) 一部10月29日(土)～名古屋市～

名古屋市の文化財5件を公開。寛家住宅では7代目当主寛さんの話術が冴え渡り、2時間があったという間。鼓や太鼓の体験も含め、濃密な時間を過ごしていただきました。日本福音ルーテル復活教会では改修工事中であり、この時にしか見ることでできない工事現場の様子も見学していただきました。



鼓や太鼓の体験（寛家住宅）



工事現場（日本福音ルーテル復活教会）



裏門（中濱家住宅）

◆11月13日(日)～東三河地方～

豊橋市と豊川市の文化財3件を公開。午後は生憎の雨となってしまいましたが、豊橋市公会堂では午後の部も屋上にあがって見学いただきました。現在は使われていない楽屋も案内いただき、「ここまで見せてもらえるとは思っていませんでした」という感想も聞かれました。



外観（豊橋市公会堂）



小学校の教室（豊橋市民俗資料収蔵室）



屋上（トヨテック本社社屋）

◆11月19日(土)～知多地方～

美浜町、武豊町の文化財3件を公開。今年登録され、初参加となった野間埼灯台では登録に尽力いただいたヘリテージマネージャー後藤さんに解説いただくとともに、航路標識協力団体である美浜まちなりの方々の協力を得て灯台に登り、無筋コンクリートの分厚い壁で造られた灯台の魅力を実感いただきました。



灯台上部の回廊（野間埼灯台）



和洋折衷建物の洋風部分（野間埼灯台旧局舎）



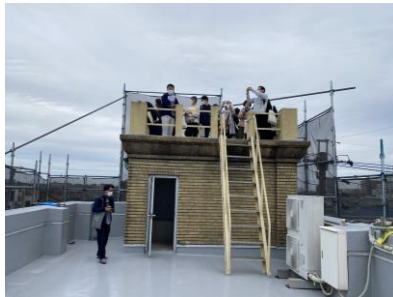
味噌蔵（中定商店）

◆11月20日(日)～尾張地方～

清須市、蟹江町、瀬戸市の文化財3件を公開。柴田家住宅では所有者の方に普段お住まいされているお宅をじっくりとご案内いただきました。甘強味淋では社長さんにご案内いただき、お土産に味淋もいただきました。



土間（柴田家住宅）



西洋館の屋上（甘強味淋）



離れ（旧山繁商店）

県内の登録文化財の活用事例紹介

vol.11

川原田家住宅

川原田家住宅は昭和12年に私の祖父信男が47歳で建てた丹羽英二設計の和洋折衷住宅です。祖父は鈴鹿市稲生町の農家の長男として生まれるも家督を継がず税務官として鈴鹿から名古屋へ移動になり、出向先の材木商に転職してから材木で稼いで川原田家住宅を建てたようです。戦後進駐軍に接収され数年は敷地内の物置を改築して住んでいましたが、2016年に母が骨折して入院するまで祖父母、両親と住み継がれ住居として使われてきました。母は骨折を契機に施設暮らしが避けられなくなり、入院を機に大掃除と土壁の修復等で建築当初の姿に戻すことを念頭に手を入れ、2017年の秋からワークショップ等での活用を始めて今に至っています。

川原田家住宅の位置する昭和区南山町は大正末期から昭和初期にかけて名古屋市が地形を生かし数百坪の区画で宅地開発を行い、別荘地として扱われていたようです。私たち家族も昭和24年生の兄

が八事小学校1年生まで住んでいましたが、父の転勤で東京に移ってからは正月と夏休みに毎年来るのが慣行で兄弟だけで来ることもありましたが、兄より4歳下の私には殆ど生活した記憶はありませんが、小学校時代は家の周りの道路は舗装されてなく砂ぼこりが酷かったことや庭に蛇や蛙がいたことを覚えています。

私は幼稚園から大学まで東京の社宅暮らしでしたので、家のある名古屋で就職し1995年から親の介護も考え敷地内に家を建て住んでいました。縁あって家屋は文化財登録に認定されましたが、家屋は立地環境や庭の設えと一体となっておりその価値だと思います。近年この一帯は大きく変化し資金ある家は建て替えられ、多くは相続を機に転売され高級マンションや高齢者施設が建てられるようになり、川原田家住宅が唯一の古民家となってしまったからこそ後世に伝える使命があると考えています。

川原田家住宅所有者 川原田 淳



▲表門及び塀



▲主屋

■ あいたて博コラボ企画

名古屋市公会堂+鶴舞公園 ガイドツアー (9/23)

名工大夏目先生による名古屋市公会堂ツアー、鶴舞公園・名古屋緑化センター佐々木所長による鶴舞公園特別講演に加え、なごや歴まちびとによる鶴々亭と百華庵のオブショナルツアーも実施。生憎の雨天となりましたが、充実したイベントとなりました。



文化のみちイベント 名古屋 陶磁器会館ツアー (11/3)

建築史家村瀬良太氏による案内ツアーを開催。事務所として利用されている部屋も特別に公開。豪華な天井装飾や多様な模様のタイルに参加者は目を奪われているようでした。見学後は昭和レトロな輸出食器でスイーツも楽しんでいただきました。



全知多茶道連盟半田茶会・ 呈茶会 (11/13)

国指定重要文化財小栗家住宅と天然堂衣秋軒にて全知多茶道連盟による半田茶会が開催されました。座敷での本格的な茶会に加え、小栗家住宅では呈茶会も開催され、初心者でも気軽に参加することができ、文化財での一服を楽しみました。



まちブラリアンの図書館活用のすすめ

ちょうど 10 年前の、ある秋の日。資料整理に通っている「寛家住宅」で、奈良の重伝建地区大宇陀にある老舗松月堂の「きみごろも」を食しつつ、故・箕鉦一師に「おみやーさん、トーブンしっとりやーすか。ワシンちそれになるでよ」というお話を聞きました。思えばそれが「登文」を身近に感じた始まりでした。

建物の専門家ではなく、ましてや所有者でもなく、郷土史と町歩きが大好きなだけの図書館司書、自称「まちブラリアン」な賛助会員の私ですが、歩いて楽しい街並みの中には高確率であの「緑のプレート」を掲げる建物があります。登録基準の第一に「歴史的景観への寄与」を掲げる通り、登文について見聞することは、その地域の歴史的風土を知ることであり、それを守る所有者や地域の人たちの努力を知ることでもあると思います。知り、感銘を受ければ、更にその成り立ち、歴史を深く知りたくなります。そんな時、お役に立てるのが図書館です。

「名古屋市図書館行動目標」には「郷土の歴史・文化を継承し、広く魅力を発信するため、郷土資料を充実」する、とあり、来年開館 100 年を迎える中央図書館から、私の勤務地のような小規模分館まで、その使命に違いはありません。同市に限らず、市町村史・県史といった基本資料からその地域

名古屋市南陽図書館 阪口泰子

にしかない出版物までを揃えた『我が町の図書館』が全国各地にあって出番を待っています。

中々暇がない、という方には WEB サービスが強い味方です。国立国会図書館の「国会図書館サーチ」では、キーワードで全国主要図書館の所蔵が調べられ、「デジタルコレクション」では約 209 万点の膨大な資料(一部は要利用登録)が公開されています。「次世代デジタルライブラリー」では約 35 万点のフルテキスト検索が可能で、書名からは検索できない意外な資料も見つけられます。

アナログ・デジタル、両方が生かせるよい時代になりました。是非図書館の資料と情報をご活用ください。



▲「次世代デジタルライブラリー」(<https://labndl.go.jp/dl/>) 参考画面
(「小栗家」でフルテキスト検索した資料一例)

編集後記

今年のあいたて博はわずかな予算の中での開催となり、十分な広報ができませんでした。予約受付直後に川原田家住宅では定員が埋まってしまうなど、あいたて博への期待が高まっているように思いました。それらも所有者や支援いただいている皆さまの熱い思いがあってこそ。限られた紙面でそれらをうまくご紹介できないのを申し訳なく思います。

例年は 3 回発行している愛知登文会ニュースですが、今年は 2 回。次号は 4 月を予定しています。初めて取り組んだクラウドファンディングについても報告します。

愛知登文会ニュース 第 33 号

発行日：令和 4 年 12 月 25 日

発行者：愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会

〒460-0003 名古屋市中区錦 3 丁目 6 番 15 号

名古屋テレビ塔株式会社内

TEL 052-971-8546 FAX 052-961-0561

E-mail info@aichi-tobunkai.org

HP <http://www.aichi-tobunkai.org>

Facebook @aichi.tobunkai

Twitter @aichitobunkai

Instagram aichitobunkai



LINE
(自動応答)